

琉球王国の外交文書—歴代宝案への誘い<sup>いざな</sup>

『歴代宝案』校訂本全 15 冊刊行記念シンポジウム報告集

目 次

目 次

シンポジウム開催にあたって 沖縄県教育委員会 教育長 平敷 昭人  
凡 例

第一部

- 基調講演 1 『歴代宝案』の編集とその意味 田名 真之 …………… 3  
基調講演 2 「ビッグデータ」としての『歴代宝案』 生田 滋 …………… 14

第二部 パネルディスカッション …………… 25

コーディネーター：高良倉吉

パネリスト：金城正篤・西里喜行・濱下武志・赤嶺守・生田滋・田名真之

参考資料

- ① シンポジウム参考資料 …………… 59  
② 『歴代宝案』校訂本担当者一覧 …………… 66  
③ シンポジウム関連新聞記事 …………… 68

## シンポジウム開催にあたって

『歴代宝案』校訂本全15冊刊行記念シンポジウムの開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

沖縄県は、かつて琉球王国として、中国や朝鮮半島および東南アジアの国々と長期にわたり交流した歴史があり、この間の外交文書をまとめたものが『歴代宝案』です。『歴代宝案』は沖縄のみならず世界的にも大変貴重な第一級の史料ですが、琉球王国崩壊後、政治の混乱や戦災に遭い、原本は失われてしまいました。

本県は、この失われた郷土の歴史史料の復元と一般県民への普及を目指して、平成元年度より歴代宝案編集事業をスタートさせました。まず着手したのが、25年の歳月をかけ、今回完結しました「校訂本」の編集作業です。

長年にわたる編集作業では、校訂を担当された先生方をはじめ、歴代宝案編集委員、また『歴代宝案』の貴重な写本などを所蔵する国立台湾大学・県立芸術大学・県立図書館・那覇市歴史博物館、校訂のための参考史料を所蔵する中国第一歴史檔案館・台湾国立故宮博物院など国内外の研究者・協力機関の皆様方に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

本日のシンポジウムは、この『歴代宝案』編集事業の成果とその意義について改めて見つめ直し、郷土の歴史を未来へつなぐための一助となるものと期待しております。

本県では、今後も『歴代宝案』訳注本及び現代語訳・英訳などの普及本の編集刊行、デジタル版の制作などを計画しております。本日御参集の皆様におかれましても、引き続き本事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本シンポジウムの成功を祈念するとともに、御来場の皆様のますますの発展と御健勝を心から祈念しまして、挨拶といたします。

平成29年7月8日

沖縄県教育委員会 教育長 平敷 昭人

## 〔凡 例〕

- 1、本報告集は2017年7月8日（土曜日）14：00～17：00、沖縄県公文書館講堂で行われた『歴代宝案』校訂本全15冊刊行記念シンポジウム「琉球王国の外交文書―歴代宝案への誘い」の基調講演、パネルディスカッションをまとめたものである。またシンポジウム参考資料として歴代宝案関連地図・年表、『歴代宝案』校訂本担当者一覧、関連新聞記事などを付け加えた。
  - 2、基調講演の掲載にあたっては、一部内容を加筆・修正した。また小見出し、注記など編集上の工夫を加えた。
  - 3、パネルディスカッションの掲載にあたっては、各発言の主旨を残しつつ、です・ます調に改めるとともに、重複が見られた箇所の削除および文意を明確にするために語句の挿入（ ）、注記などを適宜行った。また、パネルディスカッションは、会場からの質問を受けた（質問用紙に記入）上で行われたため、最初に基調講演者への質問と回答が掲載されている。
- ※ 本シンポジウムは延べ250名を超える来場者があった。シンポジウム開催にあたってご協力いただいた沖縄県公文書館、歴代宝案編集委員の先生方はじめ、関係機関、関係者に改めて感謝申し上げます。なお、本シンポジウムの基調講演については、「沖縄県生涯学習情報プラザ」ホームページで映像が公開された。



歴代宝案編集参考資料 19

琉球王国の外交文書—歴代宝案への誘い<sup>いざな</sup>

『歴代宝案』校訂本全 15 冊刊行記念シンポジウム報告集

---

---

2018 年 3 月 23 日発行

編 集 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班  
〒 901 - 1105 沖縄県南風原町新川 148 - 3  
Tel 098 - 888 - 3939

発 行 沖縄県教育委員会  
印 刷 株式会社 国際印刷  
〒 901 - 0147 沖縄県那覇市宮城 1 丁目 13 番 9 号  
Tel 098 - 857 - 3385

---

---